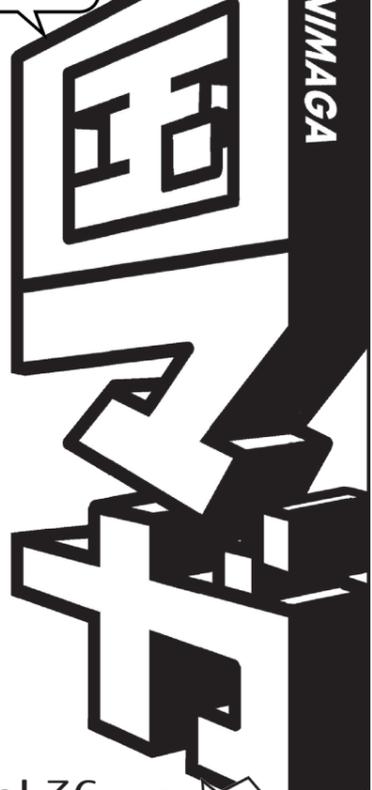


特集「この町の出会いと別れ、卒業式！」

毎月第1週発行
こどもの国系
情報誌!

KUNIMAGA



こどもの国から卒業していく君へ

Vol.36
2016年3・4月
合併号

¥0

●卒業式シーズン到来

小学校は6年間ですが、中学校や高校は3年間しか通わないんですよ。もちろん、中高一貫校なら別ですが、それでもやっぱり短い気がします。ましてやクラス替えは1年ごとにあたりするわけで、大人の感覚からすると、小中高生の時間って本当に短い。それでも、本当に濃厚な時間を過ごしていたようで、山のように思い出がありますよ。そんな思い出を引き連れて、今年もみんなが卒業していくシーズンとなりました。今回は卒業式特集、こどもの国周辺の学校の卒業式を取り上げたいと思います。

●地元学校の卒業式、いつあるの？

『国マガ』配布地域の主だった学校の卒業式を調べてみました。果たしてこの表がどれだけみなさんの役に立つのかはわかりませんが、「そういう近所の子はこの学校からもう卒業なのか」なんて時の流れの早さを感じてみてはいかがでしょうか。

国マガ配布地域	
卒業式日程	
奈良小学校	3月18日
恩田小学校	3月19日
桂小学校	3月18日
奈良の丘小学校	3月18日
奈良中学校	3月14日
青葉台中学校	3月14日
田奈高等学校	3月2日

●卒業式とともに少子化を憂う

この町で長年暮らしていますが、最近子どもが少なくなっていることに気がつきます。かつて卒園した幼稚園のバスはサイズも小さくなり、たくさんの子どもたちがいたバスのお迎え場所も、今では1組の親子がいるだけだったり。国マガメンバー4人の母校、奈良中学校も通学する生徒たちが随分少ない気が。でも、僕らの同級生たちが口を揃えるのが、子育てするには良い町だということ。実際に子どもが産まれてこの町に帰ってくる同級生も多いです。いつまでも卒業式ができる町であって欲しいですね。

次号は5月発行!!



今回は3・4月合併号! 国マガ本誌も4年目を迎えるにあたって、誌面リニューアルを予定しています!

卒業式から次の学校の入学式までの間の春休み、その間どこにも所属していない状態はなんだか不思議だったような気がします。組織や職業に所属していないことが世間から許されている、人生の数少ない時間なのかも。学生のようにいて学生じゃない、そんなレアな時間を卒業生は大切にしたいですね。

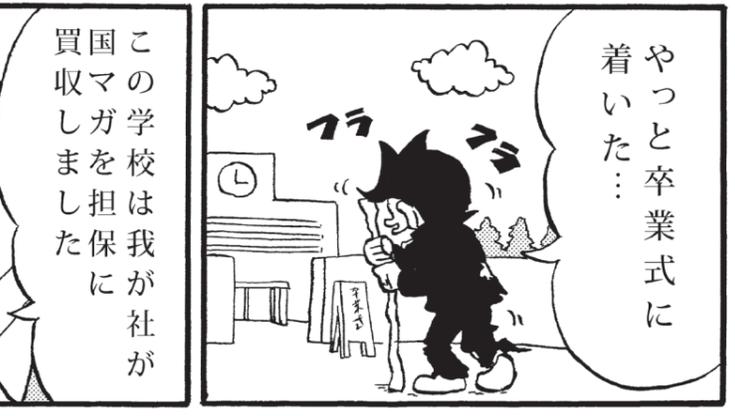
この「つるみ」からの卒業考

人生における「卒業・入学」の大きな役割は、友達関係をスクラップ・アンド・ビルドしてくれることだ。つまり、卒業によって「つるみ」が離れた「つるみ」と離れ、入学が否応なしに新しい人達と関係を築く機会となる。

青春映画の金字塔である「スタンドバイミー」の主題は、まさにこの少年時代の「つるみ」との永久の別れであり、それは大人になるためには必要なものとして描かれている。

そんなわけで、学生読者諸君、勇気を持って、古い「つるみ」から抜け去り、新しい人間関係に飛び込んで欲しい。それが成長することなのだから——以上。……と、今回のテーマでは、人生の先輩として学生へ何か言いたいと思いき始めたが、最近はこのような訓示はあまりリアリティを持たないだろう。

なぜなら、ケータイとSNSの登場で、人生における「別れと出会い」事情が劇的に変わってしまったからだ。われわれの世代は、ちょうどその変化を肌で感じた世代にあたる。



私は、01年の夏、16歳でケータイを持った。そのころ、誰かひとりにアドレスを教えると、親切にというべきか勝手にというべきか、関係者各位に「あいつのアドレスはこれらしい」とメールが回り、連絡先を交換した覚えのない小・中学生の同級生から「わたしのアドレスはこれ」というメールが次々と私の許に届いた。それは大学生になるとミクシィの「マイミク」申請と姿を変え、現在のフェイスブックへと続いている。

さらに、「友達関係が永遠不滅なんて、不燃ごみと一緒だぞ」と諭されたら、黙るしかない。この「国マガ」も小学校からの「つるみ」で作っているが、たしかに彼等といるときは心地良いが、いつもよりIQが30ぐらい下がっている気がする。これは完璧に退行だと思っ。そう考えると、何だかへこんできたし、この先の自分が不安になってきた。

かように、われわれ世代ぐらからは、ネット環境のおかげで、昔の「つるみ」から完全に断絶されず、友達関係がずっとオンラインなのだ。もっと早くにケータイを持った若い世代からすると、これはもう当たり前のことなのかもしれない。

もし、ここで「スタンドバイミー」のゴードイ(主人公)が現れ、「じゃあ、君たちさ、どうやって大人になっていくんだい?」と聞かれたらどう



だが、この「少年時代の仲間たちとつるみ続けてしまおう」というライフスタイルは新しいもので、このままで良いかどうかは、たぶんまだ誰も答えを出していない。映画「テッド」でも、主人公は親友の、喋るデバイスとフィアンセのどちらと余暇を過ごすかを選ぶこととなったが、最後まで選べなかったわけだし。みんな悩んでいるんだ。うーん、とりあえず、この問題は保留だな保留。じゃあ、人生の先輩として、学生諸君に送るアドバイスはどうしようかな。とにかく、卒業式で雰囲気酔って泣き過ぎないように。だって、どうせまたつるむわけだし。派手にワンワン泣くと、次会うときなんか気まずいだけぞ。

